

張作霖爆殺事件はコミンテルンの

謀略だったのか

去る16日に放映された「サンデープロジェクト」で田母神論文について保守と左翼の論戦がありました。保守側が志方俊之(帝京大学教授)、潮匡人(帝京大学准教授)、左翼側が司会の田原総一郎と田岡俊次(軍事ジャーナリスト)の各氏でした。

この田岡俊次は私の嫌いな評論家のベストスリーに入るくらい普段は全然評価していませんが、「満州事変について一切触れていない。満州事変は相手国どころか日本政府の了承も得ずに勝手に軍を進めた」などと語り、何か満州事変が日本侵略の象徴であるかのような発言をしておりました。

その認識の時代遅れにあきれてしまいましたが、私が反論しても仕方がないので、明成社から発売されている日本の息吹ブックレット「歴史の書き換えが始まった—コミンテルンと昭和史の真相」から満州事変の部分の一部を紹介します。

これは小堀桂一郎氏と中西輝政氏の対談をまとめたもので、昨年12月に発行されています。長文ですので二回に分けますが、興味のない方は飛ばして下さい。田岡俊次よ、この本を読んでもっと勉強しろ、と言いたい！。

ほとんどが伝聞だった

小堀 前置きが長くなりましたが、中西さんが綿密な調査をされました現代史の書き換えを巡っての話に入って行こうと思います。

まず、やはり私共が、「ああ、そうだったのか」という感慨を覚えたのが、張作霖爆殺事件の真相についてです。これまでの通説は関東軍が起こした事件とされていましたが、実はソ連コミンテルンが計画し関東軍の仕業に見せかけたものだったという説ですね。

関東軍の河本大作の自己認識が、果たしてあれは自分の工作の成功だったのだと、本当に思いこんでいたのか、それとも祖国を裏切ってまでソ連の謀略工作を庇うという、そういう気持ちがあって、「あれは、俺がやったんだ」というふうに言い張ったのか、という事は勿論簡単には解けませんけれども、その辺、現在の中西さんの解釈はいかがでしょうか。

中西 歴史の、とりわけいわゆる日本近代史を見直す時に大事な手法があります。既に「[南京事件](#)」などを巡って東中野修道氏や北村稔氏がなされている手法で、これが昭和史の他の問題についても全部当てはまると思っております。それはどういう事かというと、ある歴史問題の特定の解釈についてそれが正しいかどうかを判断するには、その歴史像を作り上げてきた元の過程に遡って、どうしてそういう話が流布するようになったか、というところまで遡らなければいけないということです。

張作霖爆殺事件も、その手法で遡っていきますと、殆ど全部が伝聞資料です。しかも、相当事後的な、もう何年も後になって誰それから聞いた、例えば関東軍の参謀が言っていたけれども、こんな話だったとか、当時、東京では「関東軍がやった」と内閣や宮中に報告された、とかいう類いの全て間接的なものですね。



定価750円、薄くて読みやすいです。是非ご覧下さい。

占領軍は東京裁判の場での証言を採用して、歴史の断を下しているのですが、例えば岡田啓介元首相が証言して、「これは大きい」と当時の人は思ったようですけれども、岡田さんは、全部伝聞の伝聞なんですね。非常に間接的なものであって、歴史学で言えば史料価値はゼロです。それから森島守人という外交官の証言も伝聞の伝聞で、しかも戦後、社会主義者になった人ですので、これまた割り引く必要があります。

重要な決め手だと言われたのが、当時、北京公使館付武官補佐官だった田中隆吉の証言です。田中隆吉は昭和十年代に陸軍省の兵務局という軍の防諜関係の責任者だったわけですが、この人は良く知られているように、敗戦後直ちに連合軍側の立場を代弁するようになります。例えば、自分が実は第一次上海事変を無理矢理引き起こすために、中国人を雇って日本人僧侶を狙撃させた、という有名な証言がありますね。

田中隆吉という人は、非常に「インテリジェンス・リスク」のある人物、つまり彼自身、諜報工作当事者ですから、そういう人が東京裁判の場に検事側証人として出てくるということ自体が大きな謀略の構図にぴったり当てはまります。ですからこういう人の証言の史料価値というのはとくに低いわけです。意図的なものがあったり、あるいは戦時中から連合国と色々な形で秘密接触をしていた可能性もあります。

それから田中隆吉という人は、昭和十年、十一年の北支分離工作、つまり内蒙古の分離独立工作と言われた綴遠(すいえん)事件の当事者です。あれは中国の反日世論を一層高め日中衝突を画策するため、モスクワがそういう謀略を考えたという見方が以前からあります。日本の中枢は、石原完爾のように、満州国の発展と国力の充実が国策として大事であって、支那本土には手を伸ばすべきではないという立場で、終始その線を守ろうとしていたわけですが、それを何とか北支に手を出させることによって、満州を固めるという日本の国策を転覆させるというのがモスクワの考え方だったわけです。

田中隆吉は当時、内蒙古特務機関長として北支分離工作を中心的に推進した人物ですから、符合してくるわけです。確実な証拠というのは、モスクワの文書が全面解禁にならないととても期待できませんけれども、いずれにしてもそういう疑惑もありうる人物の証言なのです。しかもその田中隆吉の張作霖爆殺事件についての証言も伝聞なんですね。もう一つは、当時中国国民党に派遣され軍事顧問をしていた佐々木到一の証言もありますが、これも間接的なものです。

さて、極めつけが河本大作自身の証言と言われているものですが、河本大作は、終戦後は、中国山西省で国民党軍の閻錫山(えんしゃくざん)の顧問になって、国共内戦の場で反中共の立場に立って協力していたんですね。ところが国府が敗れ共産軍に引き渡されてしまったわけですね。そして、太原戦犯管理所という所に入れられまして、中共の戦犯管理の中で、三年間過ごし、そこで亡くなっています。手記も何も書いていません。

河本告白記は義弟の平野零児が書いた

じゃあ『文藝春秋』昭和二十九年十二月号に載った「私が張作霖を爆殺した」という、あの河本告白記というのは誰が書いたかという、これは河本の義弟で作家の平野零児が書いている。彼は戦前は治安維持法で何度か警察に捕まっている人なんです。その人が河本の一人称を使って書いたわけです。その内容も当時、ほとんど誰も確認せずにそのまま活字になっているわけですね。

ですから、張作霖爆殺が関東軍の仕業だったというのは、当時の流言蜚語、それから東京裁判での田中隆吉証言、そしてこの文藝春秋告白記と称するものに基づいているといえます。一番のポイントは当時の日本国内に、「張作霖爆殺は関東軍がやった」ということを信じさせるような充満した雰囲気、事件が起こる前からあったということです。

張作霖が蒋介石の北伐に追われて満州に逃げ帰って来る、関東軍はそれを武装解除するかどうか、というような状況下で、日本中が「関東軍は何かやるぞ」という雰囲気に満ち満ちていたんですね。そこに、「爆殺された」というニュースが入った。そうすると、自動的に政府部内ですぐさま「関東軍がやったらしい」という話がまことしやかに広がると、もう皆が見てきたように証言的なものを書いたわけですね。

当時、鉄道大臣だった小川平吉関係文書というのがありますが、それもやはりそういう雰囲気、関東軍がやった」という大前提で解釈を下しており、他の可能性を確かめようとしませんでしたね。

小堀 それで先帝陛下まで、それを信じられて、非常にお怒りになって田中義一首相に詰問なさる、ということになったわけでしたね。

カテゴリ: [コラむ](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(14\)](#)

タグ: [満州事変](#) [コミンテルン](#) [小堀桂一郎](#) [中西輝政](#) [田岡俊次](#) [サンデープロジェクト](#)

コメント(14)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by [花うさぎさん](#)

2008/11/22 19:27

この対談は中西輝政京都大学教授が雑誌「諸君！」に「国家情報論—二十一世紀の日本存続の条件」を連載して二十回となったタイミングをとらえて行われたものです。

ブックレット「日本の息吹」平成19年8月、9月号に収録された対談の全文です。定価750円と書いてしまいましたが定価700円と消費税の誤りです。文の最初で田母神氏の名前をタイプミスでしてますがご容赦下さい。



Commented by [湯煙の中の一杯さん](#)

2008/11/22 20:52

こんばんわ

このエントリのきっかけになったサンプロは観ました。田岡氏は左翼の方らしく、潮氏が当然だと言われている話を当然なのかどうかを論ずるべきだという話をしはじめると横から遮るということを繰り返していました。まるで国会での野党の姿そのものに見えましたね。ゲスト同士でありながら相手にモノを言わせようとしない姿には、潮氏に何か言われては困るのではないかと感ずるものも感じ、胡散臭い奴だなと視聴者は皆感じたのではないのでしょうか？



Commented by [花うさぎさん](#)

2008/11/22 22:15

To 湯煙の中の一杯さん こんばんわ。

> 潮氏が当然だと言われている話を当然なのかどうかを論ずるべきだという話をしはじめると横から遮るということを繰り返していました。

まとも論戦すれば左翼は保守に勝てないということが判っているのですよ。田岡は上記の主張をかなり興奮して早口言葉みたいに一気に話してましたね。

おちついてゆっくり話すと負けるからです。保守の人が落ち着いて見えるでしょう。この男は相当脳みそがやられてますよ(^^)。

> 胡散臭い奴だなと視聴者は皆感じたのではないのでしょうか？

御意。



Commented by **無駄話さん**

佐藤守 元空将のブログに田岡のことが紹介されている。

日航機の墜落時の自衛隊の行動を批判したことに佐藤氏が反論したら、[防衛庁](#)に乗り込んできて暴言を吐いたことで、当時国会でも問題になった件です。朝日の威光を背中にして、当時やりたい放題言いたい放題の言動をしていた男です。当然、不勉強です。以下、引用
<http://d.hatena.ne.jp/satoumamoru/?of=10>

2008/11/23 09:34

2008/11/23 10:00

>その昔、JAL123便が御巢鷹山に墜落して520名もの犠牲者を出した時、位置特定や救難遅れ？についてあまりにも非常識な一部メディアの論評に私は官姓名を名乗った上で反論したが(以前ブログにも紹介した)、その後一新聞記者が「1佐なんか飛ばしてやる！」と怒鳴り込んで来たことを思い出す。

今度は1佐ではなく「空将」の首をとったのだから、さぞや某紙記者は得意だろう。そのとき私の論文に対してあまりにも無知な評論家が《月曜評論》紙上で反論し、質問してきたので、更にそれに反論しようとしたら、「国会で問題になる」「相手は元[防衛庁](#)部員([防衛庁](#)内だけに通用する事務官の内部呼称)だから」とかいう理由で、「口封じ」された経験を持つ。



Commented by **花うさぎさん**

To 無駄話さん

おはようございます。

2008/11/23 17:59

>佐藤守 元空将のブログに田岡のことが紹介されている。
 >朝日の威光を背中にして、当時やりたい放題言いたい放題の言動をしていた男です。当然、不勉強です。以下、引用
 ><http://d.hatena.ne.jp/satoumamoru/?of=10>

情報感謝です。この田岡が以前テレビ番組で、中国の軍事力拡大に懸念をしめず討論で、「装備は古いし全然脅威ではない、日本の自衛隊の近代装備にかなわない」などというって[中国](#)を擁護していたのにあきれた事があります。

この手の評論家を日本から一掃したいものです。



Commented by **無駄話さん**

>、「装備は古いし全然脅威ではない、日本の自衛隊の近代装備にかなわない」などというって[中国](#)を擁護していた

2008/11/23 19:25

彼は一貫してそう言い続けていました。根拠も示さずに。

彼にとっては実体が問題なのではなく、シナ軍を過小に見せ手油断させる手でした。最近「これほど力をつけた([宇宙](#), 核, 海軍+陸軍) [中国](#)とは衝突を回避する他に選択肢は無い」と言っていたような気がします。

以前はウソで現在は真実を語ってくれ居るようですが、実は張子のトラかもしれないです。



Commented by **花うさぎさん**

To 無駄話さん

>以前はウソで現在は真実を語ってくれ居るようですが、実は張子のトラかもしれないです。

こんないい加減な事を言っていて「軍事評論家」の肩書きで飯が食えるのは日本だけでしょうね？。



Commented by **第一義@運国齋さん**

こんばんわ。無事に帰りまして、今、必死にPCに齧り付いています(笑)。

2008/11/24 19:41

田岡某は全く知りませんでした、人体に有害、悪影響を与える電波を人間に発射する発信者ですね(苦笑)。

この満州事変ではソビエトの陰謀説が濃厚になってきましたが、それを更に裏付けたの

がヴェノナなる文章、ヴェノナ文書とも呼ばれて、月刊正論でも取り上げられ、話題になりました。

2008/11/25 02:06

花うさぎ様の事ですからご存知かと思いますが、米英両国がWW2から冷戦までのソ連の暗号解読を始めて、それをまとめたのがヴェノナと呼ばれた文書で、そこから解読された情報で、ローゼンバーグ事件もこの時の暗号解読によってローゼンバーグ夫妻がソ連のスパイという事実が発覚したために処刑された。ただし、暗号や解読の事実は特殊機密の為に秘匿されて証拠が示されず、罪無き処刑と一部で非難された。
(我国の極左や反日も非難したんでしょうね、当時は(笑))

でも、これって本当にあの時の日本が畏にはまる真実を照らした物でしょうね。それでもヴェノナを信用せず、おかしな擁護と言動を繰り返す田岡某みたいなのが居るのは救いがたい。何が軍事評論家だ、偏向軍事評論家、ってなら分かりますが(笑)。



Commented by **花うさぎ** さん
To yuukokushaさん

2008/11/25 02:08

こんばんわ。

>田岡某は全く知りませんでした、人体に有害、悪影響を与える電波を人間に発射する発信者ですね(苦笑)。

電波に出る機会は左翼系以外は少ない人ですが、キョロキョロして落ち着かない、すぐ興奮してメチャクチャな理論を早口でまくし立てる、と言う点で「早くリタイアしろ」と言いたい一人です。

>この満州事変ではソビエトの陰謀説が濃厚になってきましたが、それを更に裏付けたのがヴェノナなる文章、ヴェノナ文書とも呼ばれて、月刊正論でも取り上げられ、話題になりました。

そうですね(^)。この本でもキーワードとして、ミトローヒン文書、マオ、GRU帝国、マッカーシズムと並んで「ヴェノナ文書」の解説が掲載されています。

>ただし、暗号や解読の事実は特殊機密の為に秘匿されて証拠が示されず、罪無き処刑と一部で非難された。

で、ヴェノナ文書が1995年に公開されてその正しさが証明された訳です。

>(それでもヴェノナを信用せず、おかしな擁護と言動を繰り返す田岡某みたいなのが居るのは救いがたい。

左翼の共通点として自分に都合の悪いことはそっぽを向いていることです。正直、近現代の歴史認識と解釈について、保守と左翼が公開生討論したら保守に勝てる左翼はいないでしょう(^)。



Commented by **花うさぎ** さん
To sasurai1950さん

貴方は私のブログから退室して頂きます。理由は自分で分かるでしょ。



Commented by **第一義@運国斎** さん
To 花うさぎさん

2008/11/25 22:01

>To sasurai1950さん

>

>貴方は私のブログから退室して頂きます。理由は自分で分かるでしょ。

こんばんわ、花うさぎさん。
こちらは雨がまた降り始めました。

sasurai1950はなんと女性だそうです。この者の同類の西田やフリーチベット某のイザブログを見てきましたが、所帯持ちのれっきとした妻、らしいです(苦笑)。必死に他人様の足手纏いになり、揶揄して、言葉尻をピックアップして叩き、おちよくて、馬鹿にする、同

類の西田三郎と似た嫌がらせ書き込みです。どう考えても日本人らしからぬ思考をお持ちのようですね。

2008/11/26 08:04

こういう輩の子供や本人もモンスターになるんでしょうね。



Commented by **花うさぎ** さん
To yuukokushaさん おはようございます。
>To 花うさぎさん

2008/12/15 23:28

> sasurai1950はなんと女性だそうです。
> 所帯持ちのれっきとした妻、らしいです(苦笑)。

情報感謝です。世の中いろいろですね(^_^;)。

必死に他人様の足手纏いになり、擲揄して、言葉尻をピックアップして叩き、おちよくて、馬鹿にする、同類の西田三郎と似た嫌がらせ書き込みです。どう考えても日本人らしからぬ思考をお持ちのようですね。

激しく同意です。

> こういう輩の子供や本人もモンスターになるんでしょうね。

頭の痛い事ですね。



Commented by **jijitu55tonews** さん
もう御存じだとは思いますが、貼るときです。

赤いクモの巣

赤いくもの巣

赤い蜘蛛の巣

Красная паутина

Тайны разведки Комитерна 1919-1943 гг.

<http://www.chtivo.ru/chtivo=3&bkid=784634.htm>

<http://www.chtivo.ru/getpic3d/16777215/500/358550.jpg>

【張作霖爆殺の真実】1/3 田母神論文「コミンテルンの謀略」【桜 H20/12/13】

ゲスト: 瀧澤一郎(国際問題研究家・元防衛大学校教授)

<http://jp.youtube.com/watch?v=HTh1yMkmuK8>

【張作霖爆殺の真実】2/3 田母神論文「コミンテルンの謀略」【桜 H20/12/13】

<http://jp.youtube.com/watch?v=XsbC3BK9auU>

【張作霖爆殺の真実】3/3 田母神論文「コミンテルンの謀略」【桜 H20/12/13】

<http://jp.youtube.com/watch?v=233fsKFGurI>



Commented by **花うさぎ** さん
To jijitu55tonewsさん こんにちは。

2008/12/16 00:20

>もう御存じだとは思いますが、貼るときです。

ありがとうございます。瀧澤一郎氏の映像は拝見したのですが、上の方はまだでしたので助かります。

時間を見つけて見てみます(^_^)。